

生物学実習 I（基礎コース）の受講について

1. 集合時間と場所が毎回変わります。

内容が多岐にわたっていますので、実施場所が変わります。予定表を確認して受講して下さい。
実習室1は3階、実習室2は2階にあります。予定表は実習の初回時にお渡しします。
野外観察の予定で雨天の場合には、KULASIS での一斉メールや掲示等でお知らせしますので、注意してください。

2. 出席を重視します。

実習は自ら体験・実施することに意義があります。遅刻すると説明を受けられませんので、時間通りに集まって下さい。

3. テキストをインターネット上で公開しています。

実習テキストを京都大学学術情報リポジトリ (KURENAI)で公開しています。

KURENAI 生物学実習 I の URL: <https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/218863>

指示があった場合は、各自で KURENAI からテキストを印刷して実習に持参して下さい。

4. スケッチ and/or レポートを提出します。

実習の内容に応じて教員がレポートの内容を説明しますので、指示に従った内容のレポートを作成して、指定された期限までに提出して下さい。3階に設置されているレポートボックスに提出するか、TA (Teaching Assistant)の院生に渡して下さい（提出方法は教員の指示に従うこと）。

5. レポートをきちんと書いて下さい。

これは全ての回に該当するものではありませんが（スケッチだけ、あるいは出席だけで良い回もあります）、レポートを提出する場合には以下の事項を書いて下さい。

1. 実験の目的 何を調べるため、何を解析するために実験をしたのかを書きます。
2. 材料と方法 実験に用いた対象の生物名を和名と学名で書きます。
方法は、文章を読んだ人が再現出来るレベルできちんと簡条書きにします。
3. 結果 写真や表、図などを併用して、得られた結果をまとめます。ここには結果だけを淡々と書き、考察は入れません。
4. 考察 目的と結果を照らし合わせて、結果の解釈をします。そして得られた

結果に至った理由や、生物の形や機能に関すること、進化に関することなど、自らの考えを結果に基づいて展開して下さい。

5. 参考文献

レポートで引用した本や、インターネットの URL を列記します。考察の箇所では、「自分独自に考えた内容」と「他人が本やインターネット上で書いている内容」を明確に区別します。人が書いた文章や発想については、必ず引用したことを記入して、参考文献の箇所でリストに挙げるようにします。科学や報道、著作の世界では、無断引用は犯罪行為とされ、法的に・社会的に厳しく処罰されます。ですから、他人の書いた文章をコピーペーストすることは、短い引用をする場合+引用標記する以外には、基本的に禁止事項になります。学生の時から、このような社会的ルールを身につけるようにしましょう。

以下に記載分と引用の仕方、参考文献リストの書き方の例を示します。

南西諸島

さて、ここで扱う南西諸島と台湾は Good (1953)あるいは北村(1957)による定義では東南アジア区系等に類別されていて日華区系から外されている。これは現在分布している植物の多くが圧倒的に亜熱帯生の植物であるからである。しかし台湾の標高 1000m 以上は年間平均気温が 17-20℃となり *Quercus* を主体とした温帯林が形成され、さらに標高が高くなると *Tsuga* や *Picea*, *Abies* などの針葉樹林や温帯性の植生が発達する (例えば Li 1983, Su 1992)。また、沖縄本島からはスギとヒノキなどの温帯生植物の大型化石 (沖縄地学会 1982) と花粉化石(松岡と西田 1978)が 200-150 万年前(第四紀更新世前期)の地層から見つかっている。

Good, R. D. O. 1953. The Geography of the Flowering Plants. 2nd ed., Longman, London.

北村四郎. 1957. 植物の分布. 原色日本植物図鑑 (上). pp. 246-264. 保育社, 東京.

Li, H.-L. 1963. Woody Flora of Taiwan. Narberth, Pennsylvania.

Su, H.-J. 1992. A geographical data organization system for the botanical inventory

of Taiwan. In: Ching.-I. Peng (ed.), Phytogeography and Botanical Inventory of Taiwan

(Institute of Botany, Academia Sinica Monograph Series No. 12), pp. 23-35, Academia Sinica,

Taipei.

6. 成績は全ての回を受講したことを前提にした、総合評価になります。
実習ごとのレポートの内容評価と出欠をもとにして、総合点を付けて評価します。

7. 安全に配慮して下さい。

野外に出かける観察では、観察に適した靴と服装で参加して下さい。京都はスズメバチが多い地域ですが、後期に野外に出かける際には黒い帽子や服は避けるようにして下さい。危険な動植物には不用意に触ったりしないで下さい。

日差しが強い日には帽子や日焼け止めクリームの使用、飲料水の用意をして下さい。

なお、実験室内は飲食禁止です。